

第5回福光地域学校統合検討委員会（会議記録）

【日時】令和7年8月6日（水）開会：午後7時00分 閉会：午後8時00分

【場所】南砺市役所 別館3階大ホール

【出席委員】 齋藤 史朗 委員長 得能 金市 副委員長 北島 清 委員
高瀬 須美夫 委員 中田 健一 委員 上野 幸生 委員
渡辺 史男 委員 高田 寧 委員 嶋 潤之介 委員
吉野 弥生 委員 幅田 向志 委員 幅田 智恵 委員
戸成 博宣 委員 船藤 幸輔 委員 舘 英二 委員
久恵 文子 委員 酒井 由美子 委員 水口 賢 委員
谷村 恵子 委員 片岸 亮 委員代理（片岸 梨香 委員）

【欠席委員】 天池 哲忠 委員 坂本 博昭 委員

【事務局員】 教育長 松本 謙一 教育部長 氏家 智伸
教育総務課長 上野 容男
教育総務課副参事 山本 佳和 教育総務課主幹 小谷 篤史
教育総務課副主幹 青能 順子 教育総務課主任 井上 健

【会議要点】

1 開会

2 委員長挨拶 齋藤委員長

3 第4回検討委員会（令和7年6月17日）議事録について

4 協議事項

（1）小学校の統合パターンについて

- ・小学校の数を1校にすることを確認した。

5 その他

- ・事務局で使用する校舎の違いをまとめた資料を作成し、8月末に委員に送付する。
- ・送付された資料をもとに、各団体で使用する校舎について協議いただき、第6回検討委員会で各団体のご意見をご報告いただく。
- ・福光南部小学校を先行で統合することに対し、第6回検討委員会で南部校区の関係者のご意見を伺う。

6 副委員長挨拶 得能副委員長

7 次回委員会の日程 令和7年10月中を予定

【会議記録詳細】

1 開会

2 委員長挨拶

(委員長)

私はかつて城端中学校に勤務していましたが、当時の城端中学校には、一学年に200人以上いて、新校舎ができたときには、一つの教室に45人もいる状況でした。それが、今となっては、単級の発生が見込まれる状況になっています。そして、福光地域の子どもたちも、30年ほど前は一学年に300人ほどいたわけですが、30年、40年経ち、今の状況になっています。

大きく環境が変わるのは嫌だという子どももいるかもしれませんが、もちろん、今の子どもが最優先ですが、我々は、10年後、20年後、30年後を見通しながら、この学校統合がどうあるべきなのかを考えないといけないと思います。

小規模校が必ずしもだめだということは一概には言えませんが、ある程度の規模がないと、子どもたちの選択肢や、触れ合う機会の場が減りますので、やはり、適正な規模は必要になります。それらのことを踏まえ、本日は検討を更に進めていこうと思います。

3 第4回検討委員会（令和7年6月17日）議事録について

(事務局)

- 資料1に沿って説明 -

(委員)

意見なし

4 協議事項

(1) 小学校の統合パターンについて

(委員長)

それでは、小学校の統合パターンについて、それぞれの団体のご意見を、順番に発表いただきます。

前回までの検討委員会で意見を述べられた団体については、資料2に記載しておりますので、意見の変更がなければ、変更なしということで結構です。もし、前回から意見が変わったり、あるいは、付け足しがあるという場合は、この場で言ってもらえればと思います。また、小学校と中学校の児童生徒の意見については、小学校はO委員が、中学校はP委員が、それぞれ代表して発表をお願いします。

それでは、福光東部小学校教育後援会からお願いします。

(副委員長)

前回までの話合いについて報告すると、福光南部小学校の統合は、令和10年よりも早くしなくてはならないのではないか、そして、それが最初に解決すべき問題ではないかという話がありました。

また、どの校舎を残すのかという話もありました。建築時期や耐震性能、建物の規模も違います。細かい部分は難しいところですが、福光東部小学校教育後援会でも考えています。

集約した意見としては、「学校の取り合いではなく、地震や自然災害も多いので、大事な子どもたちのことを考え、安全な所で学校を運営していただきたい」ということです。

(委員長)

小学校の数についてのご意見はいかがでしょうか。

(副委員長)

小学校の数については、今のところ、はっきりとした意見は出ていません。検討状況によっては2校とも残す必要があるという意見や、最初から1校にすべきという意見も出ました。今後も色々な考え方や意見が出てくるだろうという話です。

(委員長)

小学校の数について、意見が固まったというわけではないということですね。

(副委員長)

そうです。ただ、「二度手間になるので、できれば1校にする」という意見が多かったです。

(委員長)

福光中部小学校教育後援会、お願いします。

(委員A)

P T Aや福光地域地域づくり協議会全体の意見として、小学校は1校にするという意見が出ていますが、我々はそれに対して反対しているものではありません。

ただ、当局にいくつか検討していただきたいことがあります。まず、仮に、小学校が1校になった場合は、特別支援学級を考慮した教室数を確保いただきたいということです。もし、教室数の関係から、無理やり特別支援学級数を少なくするようなことがあるならば、子どもへのきめ細やかな教育ができなくなると感じています。

また、中部小学校で放課後児童クラブが行われていますが、希望者が多く、今でさえ、全員が希望どおりに放課後児童クラブに入れない状況です。それが、小学校が1校になってしまうと、ますます入れなくなる子どもが増えるのではないかと心配しています。放課後児童クラブの収容能力についても、考えていただきたいです。

もう一つは、児童館についてです。福光地域にはきつずらんどがありますが、かねてから、「使いにくい」、「利用しにくい」、「場所が悪く、学校が終わってから高学年が行くのに移動しにくい」といった色々な不満を聞いてきました。小学校が1校になるのであれば、今のきつずらんどではなく、統合先の小学校の近くにきつずらんどを再整備いただき、学校が終わってからすぐにきつずらんどに移動できるようにしていただきたいです。

いくつか要望を申し上げましたが、このようなことをクリアしていくという条件で、統合の検討を進めていただきたいと思います。

(委員長)

福光南部小学校教育後援会、お願いします。

(委員B)

小学校は1校ということで、意見は変わっていません。

(委員長)

福光中部小学校P T A、お願いいたします。

(委員C)

小学校、中学校ともに統合時期が示されたので、中部小学校では7月18日にPTAの役員会を開催し、再度、小学校の統合パターンについて意見の取りまとめを行いました。

意見が割れている状況であり、通学に対する懸念から小学校2校を提言していました。しかし、前回の検討委員会で、通学に対しての安全確保や、手厚いスクールバスでの対応をしていただけるとありましたので、中部小学校PTAとしては、小学校1校とします。

(委員長)

福光南部小学校育成会、お願いします。

(委員D)

以前アンケートを実施したとおり、今のところ、小学校1校で変更ありません。

(委員長)

福光東部小学校育友会、お願いします。

(委員E)

小学校1校のまま、変わっていません。

(委員長)

福光中学校PTA、お願いします。

(委員F)

PTAの執行部会でこの話をしたところ、だいたい半々で意見が割れました。小学校1校の場合は、「どんどん人口が減っているので、早く1校にしたほうがよい」という意見でした。小学校2校の場合は、「スピード感や費用面を踏まえ、まずは小学校2校ではないか」という意見が出ました。

中学校のPTAの意見としてどちらかにすべきかと言われると、どちらの意見もあるということで、明確には言えません。あくまで、私個人の意見になりますが、小学校2校の場合は、南部小学校の子どもたちが別れることがない形で統合していただければと思います。

(委員長)

小学校の数については、どちらとも言えないということですね。福光どんぐり保育園父母の会、お願いします。

(委員G)

福光どんぐり保育園では、明確な答えを出したわけではありません。

ただ、少し踏み込んだものになりますが、「中学校が1校になるのであれば、部活動のことを考慮すると、体育館施設が整っている福光校区のほうがよいのでは」という意見や、「福光校区側に小学校と中学校が1校ずつとなれば、スクールバスも1路線となり、運営しやすいのでは」という意見もありました。

(委員長)

どこに校舎を置くかについては次の検討事項になりますが、小学校の数については1校だという意見でしょうか。

(委員G)

1校で仕方ないという意見です。今後単級になると、クラス替えができなくなることや、いじめといったことも含め、児童が少なくなるとそのような問題も出てくるから仕方ないということで、小学校1校のほうが多いという感じです。

(委員長)

福光南部あおぞら保育園父母会、お願いします。

(委員H)

前回の検討委員会で頂いた学校統合検討案の資料を保護者に見ていただき、アンケートを実施しました。

14世帯から回答があり、その結果、約8割の11世帯が小学校1校を希望されていました。意見としては、「少子化によっていずれ小学校が1校になる可能性があるならば、今回の統合で1校にすべき」という意見が多く、また、「小学校2校の場合、南部小学校区は保育園の同級生と別れて進学するため、みんな同じ学校に通えたほうが、子どもがさみしい思いをしなくて済むのではないか」という意見も多く聞かれました。

一方、約2割の3世帯が小学校2校を希望され、「自宅から通いやすい」、「目の届きやすい教育ができる」といった意見がありましたが、南部あおぞら保育園父母会の意見としては、小学校1校を希望しています。

(委員長)

福光東部かがやき保育園父母の会、お願いします。

(委員I)

アンケートを取り、51世帯から回答がありました。結果、小学校1校は22世帯、小学校2校が26世帯、どちらとも言えないが3世帯でした。

色々な意見をいただきましたが、小学校1校の意見としては、「児童数が多いということは、その分だけ色々な人との関わりが持てるからよいのでは」、「少子化が進み、いずれ1校になるなら、今のうちに1校に統合したほうがよいのでは」というものがありました。小学校2校の意見としては、「小学校低学年は、まだ近いところに通えたほうがいい」というものや、「先生に一人ひとりの児童をしっかり見てほしい」というものが多くありました。

また、スクールバスでの移動であっても、通学距離が長くなれば、その分だけ朝早くに準備することが増え、保護者の負担が増えるので、「もし、小学校1校になったとしても、通学に関しては今までどおり、あまり変わらないようにしていただけるのがありがたい」という意見も多かったです。

(委員長)

小学校の数についての意見は、大きく見て半々だということですね。

(委員I)

はい。ただ、「少子化だから小学校1校で仕方ない」という意見や、「まだ1クラスを維持できるのであれば、2校でもよいのでは」という意見もありました。「できれば小学校2校にしたいが、意見としては小学校1校を選択」といったものもありました。

(委員長)

福光青葉幼稚園保護者会、お願いします。

(委員 J)

再びアンケートを取りました。前は小学校 1 校のほうが多いという結果でしたが、今回は、回答があった 29 世帯のうち、小学校 1 校を希望しているのが 12 世帯、小学校 2 校を希望しているのが 16 世帯、どちらともいえないが 1 世帯で、小学校 2 校を希望される世帯が少し多くなりました。

小学校 1 校を希望される方は、「いずれ人数が減ってしまっ将来的に 1 校にしなければならぬときが来るのであれば、最初から 1 校にしたい」という方が 5 名、「クラス替えがあったほうが人間関係が固定せずに、6 年間過ごしやすいと考える」という方が 2 名いました。

一方で、小学校 2 校を希望される方は、おそらく、中学校が 1 校になることが決まったことを受けたのか、「中学校が 1 校になるのであれば、小学校は 2 校にして、少しでも少人数でしっかりと子どものことを見てもらいたい」という意見があったのと、「小学校は少人数で丁寧に手厚く見てもらいたい時期である」という意見も 2 名からありました。このような意見を持つ方が増えた結果、小学校 2 校を希望される方が若干増えたのではないかと考えます。

(委員長)

喜志麻保育園父母の会、お願いします。

(委員 R)

前回の検討委員会で報告したアンケートの結果のままです。付け加えるとすれば、どちらとも言えないが 8 世帯ありました。アンケートの結果は、小学校 1 校が 14 世帯、小学校 2 校が 11 世帯、どちらとも言えないが 8 世帯です。

意見としては、前回の検討委員会で申し上げたとおりで、「費用面に鑑み、小学校を 2 校残したところで、いつかまた統合の話が出るので、市の財政を不必要に圧迫する必要はないから早く統合を実現させてほしい」や、「交通インフラの整備がないと成立しないので、このようなことも考えてほしい」といったものがありました。

今回の学校統合の検討に当たっては、費用面を考慮せずに話し合っていますが、現実として、各個人の判断の過程には、費用面などを考慮していると思われます。この検討委員会の議題ではないですが、次の段階の設置協議会で真剣に取り組んでいただきたいと思います。

(委員長)

福光地域地域づくり協議会、お願いします。

(委員 K)

第 3 回検討委員会に向けての会合、第 4 回検討委員会に向けての会合をそれぞれ行いました結果、小学校 1 校のままで変更ありません。

(委員長)

南砺市商工会福光支部青年部、お願いします。

(委員 L)

商工会福光支部青年部では、福光支部の全部員に対して資料を配付して意見を求めました。意見を求めましたが、意見の提出がなかったため、7 月の役員会で、学校数に対する意見を議題に挙げて話し合った結果、小学校 1 校でした。

この先の話になると思いますが、「どの学校を残すか」、「どこをどのように利用するか」ということに対する要望になります。しっかりと調査、検証などをしないと行かないというところであり、そのような意見もありました。また、以前もお伝えしましたが、

今回の学校統合に当たり、地域を盛り上げていくことや、そのご協力に関しては、引き続き尽力させていただければと思っています。

(委員長)

福光スポーツ協会、お願いします。

(委員M)

変わらず小学校1校で、小学校は福光校区、中学校は吉江校区ということでまとまっています。

(委員長)

南砺市文化協会福光支部、お願いします。

(事務局)

本日欠席です。小学校1校で、変更はないということです。

(委員長)

南砺市主任児童委員、お願いします。

(委員N)

どちらの案も、よい面と問題点があると思います。南砺市のほかの地域では、かなり前に小学校1校に統合されていますが、遠くから通学している子どもたちのためのスクールバスの運行などの対策もしっかりとされており、学校運営も充実しているように思われます。

福光地域には、各小学校区に1人ずつ、計3人の主任児童委員がいますが、その3人のなかでは、小学校1校のほうがよいのではないかと話していました。

(委員長)

それぞれの団体からご意見をお聞きしました。最後になりますが、児童生徒の意見ということで、参考にお聞きしたいと思います。まず、小学校からお願いします。

(委員O)

福光中部小学校、福光南部小学校、福光東部小学校3校を代表し、子どもたちの声をお伝えしたいと思います。

小学生なので、「何を根拠に判断すればよいのか」という点が難しかったというのが、正直なところでした。ただ、ざっくりとした結論としては、1校がよいと感じた子どものほうが多かった印象です。なかには、「分からない」という声もありました。

小学生には、「小学校が1校になったらどんなことが楽しみか、どんなことが心配か」という形の尋ね方で聞いてみました。楽しみなこととして、「たくさん友達ができる」、「幼稚園で一緒だったのに、小学校に入学するときに別れてしまった友達とまた会えるのが楽しみ」、「もう別れなくてよいということが嬉しい」といったことや、「スポーツ少年団で一緒に活動しているほかの小学校の友だちと同じ学校になれるのが楽しみ」、「クラス替えはあったほうがよいと思う」や、「中学校で1つになるのであれば、最初から小学校も1つのほうがよいのでは」というような声がありました。

逆に、小学校が1校になったら心配なこととしては、「人数が多くなるので、新しい友だちと仲良くなれるのが心配」、「人数が多くなることで知らない人が増えるから、覚えられるか心配」、「喧嘩が多くなるのではないか」、「学校が狭く感じるのではないか」といったものがありました。

また、「小学校が2校になったら」というニュアンスだと思いますが、「もし今の自分たちが友だちと別れなければいけなくなるとしたら、それは嫌だ」という声や、「いつか別れるとことがあるのだとすれば、もうそれなら1校がよい」という声もありました。

(委員長)

続けて、中学校の意見ををお願いします。

(委員P)

それぞれの中学校で、7月の中下旬に、各ホームルームの時間のなかで生徒に対して質問しました。全部で300人ほどになります。

小学校が1校又は2校になることに対してですが、「特にない」という意見がほとんどでした。意見を書いてくれた生徒のなかで、小学校は1校になったほうがよいという生徒は2人だけでした。一方、小学校は2校がよいという意見は10人ほどいました。福光中学校・吉江中学校ともに、統合することにより、通学距離が長くなるということがすごく心配だという意見が非常に多かったです。

また、「校舎については、新しい校舎をなるべく使っていけばよいのでは」、「1校になることにより、いじめ問題などのトラブルが増えるのではないか」という意見もありました。ほかにもいくつかの意見がありましたが、小学校の数に対する中学生の主な意見は、このようなものでした。

(委員長)

ひととおきお聞きしたわけですが、これらをもとに協議を進めていきたいと思います。それぞれの団体からのご意見をお聞きし、何か発言されたい方がいらっしゃいましたらお願いします。

(委員C)

子どもの意見に関連しますが、先月、たまたま東部小学校・中部小学校・南部小学校の6年生の子と一緒にいる機会がありました。やはり、気になっているのか、その子どもたちが「小学校はどうなったのか？」と聞いてきました。

その話のなかで、南部小学校の6年生の子が、「僕は小学校は1校がいいと思う。だって、友だちが多いほうがよいから」と、言ったんですね。今まで、多くの保護者の色々な意見を聞いてきましたが、正直、この一言が一番心に残りました。

(委員長)

数からすれば、小学校1校が圧倒的に多いわけですが、みなさんいかがでしょうか。

今後の個別の検討課題として、先ほどから盛んに出ている施設設備や、通学支援などがあるので、それに向けて今回意見を出していただいてもかまわないと思います。今、言っておきたいことがあれば、お願いします。

(委員J)

私も中部小学校と東部小学校の子どもたちと話をする機会があり、最近、「小学校が統合する話をどう思っているのか？」ということ、個人的に話してみたことがありました。

その子どもたちは、「自分の校区、自分の家の近くの学校がいいに決まっている」と言っていました。子どもが、自分が家から通える近くの学校をすごく愛していること、親しみを持っているということを感じられた瞬間で、子どもたちにとって、自分の学校がなくなってしまうということは、やはり悲しいことであるということを感じました。

本当に少人数の子どもたちの意見ですが、その意見を聞き、私個人としては、統合を急がなくてもよいのかなとも考えました。いずれ1校にするのであれば、早い段階で1校にしてしまったほうがよいという意見もたくさんあるなかで、「それは本当に子どものためを思った選択なのか、もしかしたら大人の都合なのではないか」と考えました。

(委員R)

親からすると、我が子が主役である姿を見たいので、小学校2校の「一人ひとりにスポットが当たる」という点に共感し、どちらかという小学校2校に賛成という意見があります。しかし、これは親の意見です。子どもの意見ではありません。子どもがどう思っているのかについては、やはり私も気になったので、自分の小学生の子どもたちに聞いてみましたが、子どもたちはどちらがよいという明確な答えは持っていませんでした。

私も東部小学校と吉江中学校を卒業し、地元愛を持っていると自負していますが、かといって、母校がなくなることに対し、そこまで悲しみがあると言われると、そうでもないような気がします。実際に統合してからでないと、分からないと感じています。

(委員長)

ひととおりご意見が出尽くしたように思います。当事者の子どもたちでも意見が分かれています。学校統合に当たり、クリアしなければならない課題等については、今後また検討していくということで、結論を出したいと思います。

全会一致でというのはなかなか難しいですが、お聞きしたご意見を踏まえると、小学校1校・中学校1校で学校統合を進めていくことになると思いますが、よろしいでしょうか。

(委員)

ー 了承 ー

(教育長)

ありがとうございました。

さて、令和10年に小学校を1校にするという方向ですが、先ほど副委員長から、福光東部小学校教育後援会のなかで、南部小学校の統合は少しでも早いほうがよいのではないかとのご意見があったというお話がありました。

現時点で使用する校舎は決まっていますが、それが令和8年3月までに決まれば、南部小学校が、1年前倒しで校舎を使用するほうの小学校に行くことは、教育委員会として対応可能だと考えています。令和9年度に、校舎を使用するほうの小学校に先に行き、少し大きい集団の中で慣れ、令和10年度に1つの小学校に統合するという形です。

ただ、これについては、今この場で決めることなく、もちろん、南部小学校のPTAのみなさんや、南部校区のみなさんの合意が重要です。当事者である地域の方のご意見をお聞きの上、もし、南部小学校の統合時期を前倒しすべきだというご意見でしたら、対応は可能です。先ほどの南部小学校に対するご意見をお聞きし、付け加えて提案させてもらいました。

(委員長)

「令和10年にいっぺんに3校が統合する形」にするのか、あるいは、「南部小学校だけ1年早く、令和9年に、一つになる予定の小学校に行く形」にするかということですね。

南部校区でそれに対するご意見をお聞きいただき、まとめていただければ、次回の検討委員会でご意見をお聞きするというところでよろしいでしょうか。

(副委員長)

私のところの3校下の会長のみなさんと話したときに、丁寧に進めるときは、準備段階を経験することが一番大事なことではないかという話がありましたし、南部小学校の統合を前倒しさせる話も出ました。当局は大変ですが、ここは避けて通れないところだと思います。

(教育長)

令和9年に小学校3校を同時に統合することは難しいですが。

(副委員長)

そのほうがタイムロスもないですし、準備も十分にできるのではないかというのが、私たちの意見です。

通学路などに関しては、具体的な話がたくさん出てきます。大事な話なので、今、我々がしっかりと意思を伝えた上で、当局はどのように判断し、対応できるのかを考えていただきたいと思います。

それと、今、教育長の意見として南部小学校の話が出てきました。我々としては大賛成ですが、当局は一回持ち帰って検討いただき、次の段階でどのように対応するかを判断されたいかがでしょうか。

(委員長)

それでは、今のお話のような形で、事務局でまとめていただきたいと思います。それから、南部校区でご意見を確認していただきたいと思いますということをお願いしたいと思います。

5 その他

(事務局)

小学校の数は1校にするということで確認いただきましたので、次回の第6回の検討委員会では、南部小学校の統合時期についての取りまとめのほか、使用する校舎についての検討に入ると考えています。

つきましては、8月末までに使用する校舎の違いについてまとめた資料を、事務局から委員の皆様へ送付します。その資料をもとに、各団体で使用する校舎についてのご意見を取りまとめていただき、第6回の検討委員会でご報告いただく予定です。ただ、すでに使用する校舎についてのご意見をまとめられた団体もいらっしゃいますので、その場合は、特段、再度話し合っていただくことは不要です。

(委員長)

それでは、次回の第6回検討委員会では、小学校・中学校の使用する校舎の検討に入ることをお願いします。検討資料も、後日、各委員に送付されますので、それをもとに、それぞれの団体でご意見を持ってきていただきたいと思います。

6 副委員長挨拶

(副委員長)

峠を越え、山をひとつ超えたという感触を受けております。次の段階では、校舎をどこに持っていくかという話になります。これには、おそらく色々な考えがあると思いますが、議論に感情的な齟齬が出てくると禍根が残ります。将来に禍根を残さないよう、しっかりと位置付けで議論することが、今現在生きてる我々の責任だろうと思います。各団体に戻られてからも、しっかりと議論していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

7 次回委員会の日程

(事務局)

次回の第6回検討委員会は令和7年10月中を予定しております。